

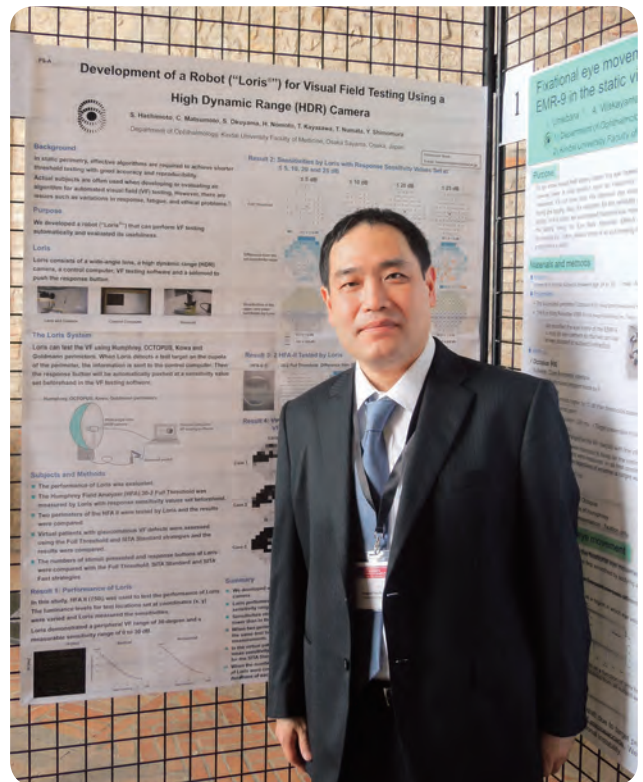


イタリア北東部の古都・ウーディネ
第22回 国際視野画像学会に参加して
中世の雰囲気漂うカステッロの美術館で
栄誉！松本長太先生が次期Presidentに

2016年度のIPS (Imaging and Perimetry Society) は、9月28日から30日の3日間の日程で、イタリアのウーディネで開催されました。



学会会場となった丘の上の城、Castello



ポスター発表の前で

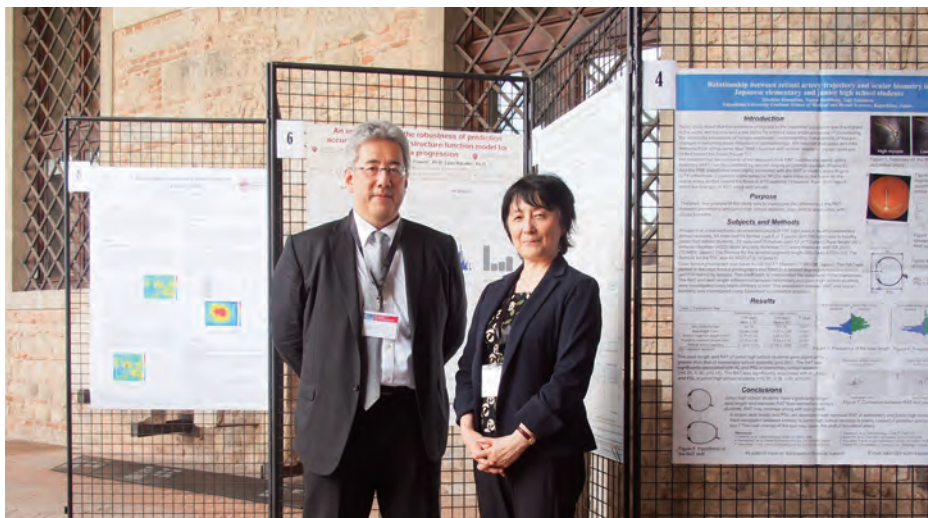
近畿大学
 医学部講師 **橋本 茂樹**

ウーディネはイタリア北東部のフリウリヴェネツィア・ジュリア州の中部にあり、ヴェネツィアからは電車で約2時間の距離に位置しています。日本人があまり観光に訪れない都市ですが、地理的にオーストリア、スロベニアとの国境に接しており、ミラノやローマなどとは文化、言語、料理などが異なる魅力的な町です。

美術館での講演

学会はウーディネ市の丘の上にあ

はじめに



北里大学准教授の庄司信行先生(現教授)と岩瀬愛子先生

る城、Castello(カステッロ)を会場に行なわれました。Castelloの内部には美術館と博物館が入っており、学会もその一部を間借りして行なわれました。写真のように天井や壁面には装飾が施され、美術館の中で講演するという、日本ではなかなかできない経験ができました。今回のIPSには、日本からは新

潟大学、東京大学、北里大学、金沢大学、近畿大学、川崎医療福祉大学、鹿児島大学、たじみ岩瀬眼科など、多数の医師と視能訓練士が参加しました。また、今回のホスト役は、ウーディネ大学教授のPaolo Brusini先生でした。

日本からは18演題

今回の学会では、口頭発表が39題、ポスター発表が21題の計60演題でした。日本からは18演題が採用され、全体の約3分の1を占め、参加国の中で最大の発表件数となりました。IPSの特徴としては、他の学会とは異なり、質疑応答にも十分な時間が割り当てられていることです。ポスター発表においても、3分のスライド講演後に5分間の質疑応答がありました。基本、発表者には必ず質問があり、英語の不得意な日本人にはかなりの試練ではありますが、質問者は皆、非常に建設的なコメントや質問が多く、今後の研究を進める上で非常に有意義な機会となりました。



IPS Lectureを行なったUlrich Schiefer先生(左)と学会長のPaolo Brusini先生

また、今回のAulhorn LectureはStefano Gandolfi先生が“*What happens in the back of the eye when IOP drops?*”を、最終日のIPS LectureはUlrich Schiefer先生が“*The visual field-more than just perimetry*”を講演されました。それぞれ最新の知見を盛り込んだ興味深い内容でした。

次期President

今学会にて現在のPresidentであるChris Johnson先生が8年間の任期を満了されました。そこで、次期Presidentを選ぶ選挙が最終日に行なわれ、近畿大学教授の松本長太先生



次期Presidentに選出された松本長太先生

生が満場一致で選出されました。40年以上の歴史のあるIPSで日本人がPresidentとなるのは初めてのことです。また、日本人が国際学会のPresidentになることは、眼科界のみならず全医学学会の中でも珍しいことで、同じ日本人医師としてとても誇らしく思います。

そして次回、2018年度のIPSは金沢市で開催されるため、ホストである金沢大学教授の杉山和久先生ならびに、たじみ岩瀬眼科院長の岩瀬愛子先生が、金沢の魅力アピールしたプレゼンテーションを行なっていました。



次回開催地の金沢をアピールする杉山和久先生と岩瀬愛子先生

Social Events

本学会の特徴のひとつに、学術講演以外にも Social Event として開催地近郊の観光や催し物を楽しむ企画が用意されています。

今回も、学会前日の夕方に学会会場である Castello の庭園で Welcome Party が催され、参加者はワイン片手に2年ぶりの再会に話を弾ませました。また、学会初日の晩にはウーディネ北部の Cassacco という町の Villa Galliei Deciani でディナーが振る舞われ、さらに、2日目の午後には Spessa 城、Aquilaia, Strassoldo 城を巡るバスツアーが催され、参加しました。Aquilaia では総主教聖堂バシリカの床下から発見された床一面を覆う4世紀の壮大なモザイク模様の敷石を鑑賞することができました。

Social Events



Welcome Party



バスツアーで訪れた Aquileia

最終日の Closing Banquet では、参加者が国別にステージに上がり、母国の歌やパフォーマンスを披露することが恒例となっています。

Closing Banquet

Closing Banquet



日本チームのパフォーマンス

日本チームは坂本九の「上を向いて歩こう」を歌った後、恒例のパフォーマンスを行いました。学会長の Paolo 先生と President の Chris 先生にステージに上がっていただき、IPSらしくスクリーンに視標を出し、何が見えたかを答えていただくクイズです。視標には日本のアニメキャラクターを使用し、最終問題ではアニメキャラの顔を Paolo 先生と Chris 先生の顔に変えるという引っ掛け問題を出しました。松本長太先生の名司会もあり、会場は大きな盛

り上がりを見せて無事に終了しました。最後は地元のイタリアチームの陽気な演奏で終宴となりました。

おわりに

今回も写真を提供していただきました可児一孝先生（滋賀医科大学名誉教授）に、感謝申し上げます。

今回の IPS は 2018 年に金沢市で開催されます。日本での開催は 1978 年の東京、1992 年の京都、2008 年の奈良に続き、4 回目となります。今回の学会以上に国内外より多くの先生方に参加していただき、学会が盛り上がることを祈っております。



イタリアチームのパフォーマンス